

令和5年度 第6回教育委員会

日時 令和5年9月11日(月) 15:30~16:40

場所 町公民館・大会議室

出席者	教育委員	柿田 美香	教育長	岩切 康郎
	教育委員	横山 槿子	教育総務課長	野村 敏幸
	教育委員	中神 克寿	社会教育課長	佐藤 光久
	教育委員	山口 昇	教育総務課主幹	村中田 博
			教育総務課係長	鶴田 智恵
			社会教育課係長	麻生 昌秀
			教育相談委員	南正覚 雅士
			SSW	松尾 容子
			議事録	森田 新太郎 [㊞]

傍聴者2名

○開会の挨拶

○教育長挨拶

(教育長)

コロナウイルス・インフルエンザの現状、通学合宿の開催、てるは教室のアートギャラリー一、町民体育大会(4年ぶりの開催)に触れて挨拶を行った。

○教育長事務報告

- ・行事経過報告及び行事計画について

(教育総務課 係長)

(社会教育課 係長)

行事経過報告並びに行事計画について、資料に沿って説明を行った。

(教育長)

小中学校管理職との意見交換会、小学校運動会(来賓の参加)、全国公民館研究集会、ふるさと夏祭り反省会(子どもたちの参加)の補足を行った。

○協議事項

- ・小中学校の児童生徒の状況について

(教育総務課 主幹)

適応指導教室の状況について資料に沿って説明を行った。

(相談委員)

通級指導教室の状況について説明を行った。

(SSW)

不登校の児童生徒、ヤングケアラーの状況について資料に沿って説明を行った。

(教育長)

ケース会議の際に保護者へのアプローチが必要になる。福祉保健課に連絡することでケースワーカーと連携をとることは可能か。

(社会教育課 課長)

可能である。

(SSW)

明日、福祉保健課に連絡を行う予定であった。

(教育長)

長期休業後は子どもたちが精神的に不安定になることがある。教育委員会としても、きめ細かに実態の把握に努めたい。不登校の生徒で気になる児童生徒はいないか。

(教育委員)

学校に行くことを選択していない子どもたちの理由として、家庭環境、人間関係、学力の不安によるものがあると考え。その中でICTをつかって学習するなど前向きな児童生徒はいるのか。

(SSW)

保護者の考え方も変化してきて、日本の教育に対して否定的な方など不登校の理由は様々である。

(教育長)

ICT 端末を活用しオンライン上で授業を受けるという生徒はいる。

(教育総務課 主幹)

家庭でICT 端末を活用して勉強するため出席扱いにして欲しいという保護者がいた。

(教育長)

綾町では保護者の教育方針で不登校となる児童生徒が多い。近年通信教育を活用したいという保護者が増えてきている。

(教育委員)

人と人との関係が気になる。その部分を学校が面談や訪問を通して良い関係性を築く必要がある。

(教育長)

保護者が同じような経験をしていることが多いような気がする。そのような家庭が多いのか。

(教育委員)

保護者や子どももの話をしっかり聞いた上で関係を築いていくしかない。どの家庭も我

が子が大事なことは変わらない。親子に傷ついた経験があるのなら、それを聞いた上で、親にも子にも寄り添うしかない。

(教育長)

私も教頭時代に親の考えで不登校になっていた児童がいたが、その子が骨折した際に、毎日送り迎えをし、寄り添うことで親の信頼を得ることが出来た。

(教育委員)

諦めないことが大事である。

・ ICT 活用指導力向上研修会アンケート結果について

(教育総務課 主幹)

ICT 活用指導力向上研修会アンケート結果について資料に沿って説明を行った。

(教育長)

生成 AI の活用もあったのか。

(教育総務課 主幹)

宮崎大学の小林准教授、小学校の実践での活用紹介があった。

(教育長)

生成 AI の活用の半分は情報モラルになると考える。適切な活用が求められる。

(教育総務課 主幹)

生成 AI の夏休みの宿題での活用禁止など県や国から通知文が来ていた。

(教育長)

今年は夏休みに小学校 3 年生以上がタブレットの持ち帰りを行った。夏休みのタブレット活用の成果についても検証も行って行く。子どもたちの評判は良かったと聞いている。

(教育委員)

子どもの方が上手く道具として活用できている。

(教育委員)

参加年齢が 50 代が多く、若い人が少ないような気がするが。

(教育総務課 主幹)

綾の教職員の方々の年齢が 4、50 代が多いからである。

(教育長)

全国的に 30～40 代の教職員が少ないことが現状としてある。

(教育委員)

私も研修に参加させていただき、小中学校の先生方が自信を持って発表されていることが印象的であり、子どもの学力向上や論理的思考向上になれば良いと感じた。その反面、プログラミング学習は拙速していると感じた。幼稚園や保育園では遊びの中の経験でプログラミング的思考を培うことができる。今の現状では拙速しすぎていると感じた。

(教育委員)

私も参加したが、やはり就学前でのタブレット活用は必要ないと感じた。自分の目で見て体で感じ、人と人で言葉で通じ合うことが重要だと考える。

(教育長)

私が綾小学校にビオトープを作りたい理由に、自分の目で見ることや生き物と触れあうことが重要である。タブレット学習と分けて行うことが必要になる。アフターコロナの中でホテル再生プロジェクトなど綾のフィールドワークに子どもたちを参加させたい。

(教育委員)

タブレットのない時代では例えば、カマキリを図鑑で調べる際に、カマキリは昆虫に属するという概念が分かっているからこそ昆虫図鑑を手に取り調べるのが可能だった。今はタブレットを使えば、カマキリが昆虫の仲間という概念がなくてもカマキリという名前だという答えが分かる。図鑑ではなく、タブレットで調べることが、成長途中の子どもの観察力や概念形成、思考力を育てることになるのか違和感を感じる。

(教育長)

自分で実際に触れて感じることは大きな経験になる。

(教育委員)

タブレットでは命に触れることはできない。生まれて死ぬということの間近で見るということは重要。

(教育長)

ハイブリッドで上手く活用することが重要。農業寺子屋や通学合宿などフィールドワークを復活させていきたい。

・「綾町高校生等子育て世帯支援給付金交付要綱」について

(教育総務課 課長)

綾町高校生子育て世帯支援給付金について資料に沿って説明を行った。

(教育長)

給食費補助はどうなっているのか。

(教育総務課 課長)

昨年度は10月から3月までの半年間無償化を行った。今年度は4月から3月までを国の臨時交付金を活用して無償化を実施する。また、町外の中学校に通学する生徒に対しても同額の補助を行う。

(教育委員)

所得制限はないのか。

(教育総務課 課長)

ない。

(教育委員)

ただし、滞納者は対象にならないということか。

(教育総務課 課長)

滞納者は対象にならない。

昨年まではバスの定期券を購入することで補助対象者であったが、今年度からは通学方法を選ばず通学補助対象となる。

(教育委員)

給食費補助では国の交付金を活用するということが、交付がなくなった場合はどうするのか。

(教育総務課 課長)

町長の考えとしては無償化に近づきたいという思いはあるとのことであったので、新年度の予算要求の段階で全額にするのか第2子以降を補助対象にするかなど方法を検討していきたい。

(教育長)

えびの市は恒久的に給食の無償化を目指すということであった。他の自治体を見てみると中学校から無償化を始め、次に小学校も無償化を行うという流れになっている。町村レベルでも無償化に取り組む自治体も増えている。今後町長や財政課との協議を行う必要がある。

(教育委員)

給食の委託業者が問題になっているが大丈夫か。

(教育総務課 課長)

できるだけ地元産の食材を活用している。町内で賄えないものについては学校給食会を利用しているので今のところ問題はない。

(教育長)

オーガニック給食を推進しており、地元の食材を取り入れているため心強い。

その他

- ・市町村教育委員と県教育委員との意見交換会の出席について

○閉会